

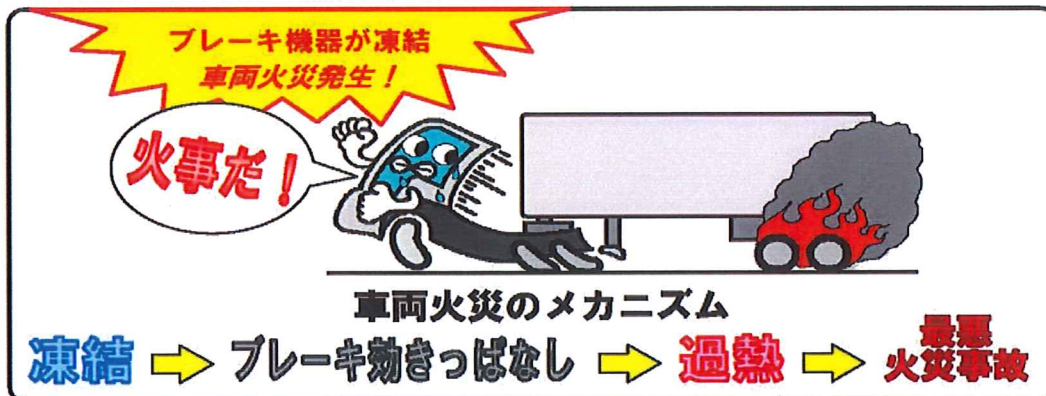
お客様 各位
サービス工場各社 御中昭和飛行機工業(株)
営業部、カスタマーサポート課拝啓、貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
弊社タンクローリーの保安基準上の 定期点検時の「留意点」を
送付致しますので、ご活用頂きます様お願い申し上げます。冬季前の リレー・バルブ メンテナンス
及び、エアタンク水抜き

点検箇所	リレー・エマージェンシ・バルブ、エアタンク	点検時期	冬季前 及び、3月毎・1年毎		
点検項目	作動状況、漏れ	点検方法	聴音・目視	点検種類	法定点検、メーカー推奨

確認部位

トレーラのブレーキ・バルブ凍結による車両火災に注意

*** ブレーキ機器の水分除去のお願い ***



ブレーキ機器が凍結すると非常に危険な状態になります。凍結を防止するためにエア・タンクの水抜きを励行すると共に、特に冬期に入る前にブレーキ機器の点検整備を行い、ブレーキ用エアに含まれている水分の除去を行ってください。

トラクタとトレーラのエア・タンクからの水抜き

エア・タンクからの水抜きは、道路運送車両法で使用者または運行する人により日常(運行前)点検することが義務付けられており、車両を安全に運行するために非常に重要なことです。

エア・ドライヤを装着した車両においても水抜きを励行し、車両の安全な状態を確保してください。

※エア・タンクから多量の水分が排出される場合は、エア・ドライヤの機能が低下している可能性があります。

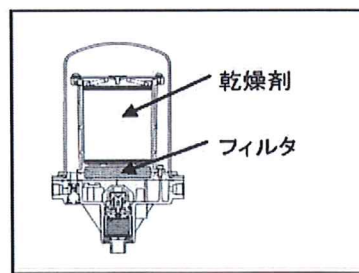
トラクタのエア・ドライヤの点検整備

ブレーキ用エアに含まれる水分は、ブレーキ機器の潤滑油を洗い流して作動を妨げ、冬期においては凍結して作動不良になる危険性があります。これらの問題を解決するためトラクタにエア・ドライヤが装着されていますが、性能を維持するためには定期的な点検整備が必要です。

乾燥剤やフィルタなどの交換時期等については各トラクタ・メーカーの取扱説明書やメンテナンス・ノートに従ってください。



エア・ドライヤの例



エア・ドライヤ内部構造(交換部品)例

確認部位(続き)

トレーラ リレー・エマージェンシ・バルブの点検整備

リレー・エマージェンシ・バルブはトラクタから送られたブレーキ用エアをコントロールし、トレーラ各輪のブレーキを作動させる重要な機能を有しています。

ブレーキ用エアに水分や埃が含まれているとブレーキ機器の作動を妨げ、さらに凍結すると作動不良となり危険な状態になります。**そのため、冬期に入る前には凍結防止のため必ず点検整備を行い、水分の除去および清掃を実施してください。**

リレー・エマージェンシ・バルブの点検整備要領

詳細については各トレーラ・メーカーの取扱説明書やメンテナンス・ノートに従ってください。

※ブレーキ機器の点検整備は、専門のサービス工場(認証工場)で受けてください。

一般社団法人 日本自動車車体工業会 パンフレットより 抜粋

リレー・バルブのメンテナンス



リレー・エマージェンシ・バルブの例
(リレー・バルブ、ヒータ付)



カバー内部の水分は完全に除去し、清掃のうえグリスアップしてください。内部のゴム製の部品は定期交換部品ですので、確実に交換してください。

(カバー内部の水分→除去下さい)

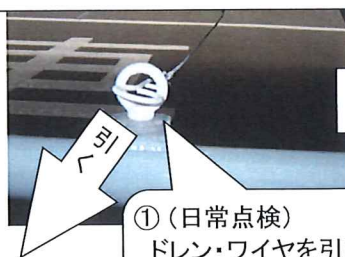
厳冬時には「ブレーキ作動(圧縮)↔ブレーキ解放(膨張)」などのエアの流れにより、内部の水分が凍結する事が有ります。それを防止するため、リレー・バルブのメンテナンスを行い、水分除去に努めてください。もちろん、グリスアップ等の処置も忘れずに施行ください。

エアタンクからの水抜き

※.エア・タンクの凝水(ぎょうすい:水蒸気が凝縮(ぎょうしゅく)して出てきた水)

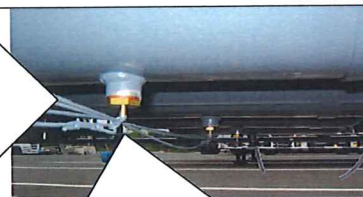
● 凝水の確認・・・法定点検項目(日常、3ヶ月毎、1年毎)

エア・タンクのドレン・ワイヤ
(サイドガード部等)



①(日常点検)
ドレン・ワイヤを引いて、内部の凝水の確認を行ってください。

エア・タンクのドレン・バルブ
(エアタンク下部)



②(日常点検)
ドレン・バルブからの凝水を確認し、油混じりの水ではないかをも確認してください。また、ドレン・バルブ周りに油が付着して居ないかについても確認してください。

※.エア・タンク内に凝水や、油混じりの凝水が溜まっていると、ブレーキ制御機器が充分に作動せず、機器内での凍結、誤作動、故障等の原因となります。運行前には必ず凝水がない事を確認し、エア・タンク内を常に清浄な状態に保ってください。
 ※.車両に搭載されたエア・タンクの個数を確認してください。必ず全てのエア・タンクの凝水や、ドレン・バルブ周りの油付着状況を確認してください。